

令和7年度 江戸川区立平井南小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	体をきたえ 心をひらいて みずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子	目指す学校像 児童、教職員、地域ととって行きがいのある学校 目指す生徒像 自ら学び、友達と仲よく、目標をもって粘り強く努力し、元気に生活しようとする児童 目指す教師像 教育の専門職としての自信と誇りをもち、熱意をもって職務や自己研さんに励み、児童・保護者・地域等から敬愛され信頼される教師
前年度までの本校の現状	成果 ○「共生社会の実現に向けた教育の推進」について、校外の組織や関係諸機関等との連携や校内研究を核とした取組を充実させることができた。 ○「特色ある教育の展開」について、異学年集団活動の推進や充実を図ることで、自他を思いやる心を育成することができた。	課題 ●「学力の向上」について、基礎的・基本的な内容の定着に資する指導や教材等を含む教育環境等の整備の充実を推進していく。 ●「体力の向上」について、休み時間の時間帯を活用した「いきいきタイム」の活動内容の充実や評価方法の工夫などを推進していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「江戸川っ子study week!」の取組を核とした基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての取組の推進 ・授業におけるICTの活用促進	・「東京ベージャック・ドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握を年2回実施し、平均正答率を7割以上にする。 ・1日2単位時間以上授業でICTを活用している教員を80%以上にする。	C		B	東京ベージャックドリルの結果は、全学年目標値を下回ってしまった。基礎学力の定着に課題があるので、学力向上担当が、対策を検討し、全校一致して取り組む。 ICT活用は、担当と支援員が強化して、3回中2回の研修を実施し、活用能力が向上している。	C	反復学習や小テストを設け、定着を高めてはどうか。	C	・「授業内容が分かりますか」の問いに90.3%の児童が肯定的回答をしているが、東京ベージャックドリルにおいて、3・4・6年生が3～8ポイント正答率が向上した。しかしながら4割から6割の到達度であり、目標値7割に届いていない。 ・ICT技能については教員研修により、技能が向上し、活用できている。	C	学力向上が本校児童の課題であるので、引き続き、継続努力・工夫をお願いしたい。	学習意欲を大切にしつつ、全学年で学力向上へ取り組む内容を年度内に確認し、4月から取り組むようにする。（低学年25マス計算、中学年100マス計算） 読解力向上の取組。「書く」活動の必須化。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科推進研修の実施（年1回以上） ・「江戸川っ子 読書科コンクール」に向けた取組の推進 ・団体貸出による学級文庫の充実と授業への活用（月1回） ・巡回司書（隣道）とSSS（毎日）による読書管理や配架、図書室及び読書室の環境整備	・「読書科ノート」を活用した調べ学習等の取組を各学年年2回以上実施する。 ・児童一人当たりの年間平均図書貸出数を20冊以上にする。 ・「江戸川っ子 読書科コンクール」に向け、夏季休業期間に課題を設定するなど、図書を活用した学習に主体的に取り組む素地を養う。	B		B	読書及び読書科に関する取組は、現在、順調に進んでいる。読書科についての教員の研修を2学期中に実施予定である。また、図書司書や読み語りボランティアと連携して、以前より充実した活動を進めることができる。	B	大方、目標に向け進んでいる。使用する本の分野を多岐にわたらせるのはどうか。	B	・読書科についての校内研修を実施したり、図書司書との連携による授業を行った。また、読み語りボランティアの方々と連携して、昨年度より1回多く読み語りを実施することができた。読書科コンクールにも出品することができた。	B	読書から、より多くの事を学習してもらいたい。	長期休業日中に、読書科研修を行ない、指導法の紹介や評価について学ぶ機会を設定する。
体力向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・休み時間の時間帯を活用した「運動遊び」による体力及び運動意欲の向上	・毎月曜日の20分休みの時間帯を活用した学期ごとに設定する「運動遊び」（いきいきタイム）の実施（年30回程度） ・「運動遊び」充実のための校内研修会の実施（年3回程度） ・校内OJTにおいて、運動にすんで取り組むための具体的な手立てを交流する機会を学期に1回ずつ実施する。	・児童対象の意識調査を年1回実施し、体力の向上の取組に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B		B	暑さが続いている状況でも、工夫して「いきいきタイム」（運動遊び）を計画とおこなって、運動に楽しむことができている。 児童アンケートは2学期末に実施予定である。また、楽しみながら運動に仕向ける工夫は2学期中に校内体育部で検討予定である。	B	地域も児童が下校後ものびのびと遊べる場をすくすくスクールとの相談で確保された。	B	いきいきタイムを予定どおり実施し、長縄やダンスに取り組みむことができた。運動をしなくなるような設備を2種類設置することができた。児童アンケートでは、体を動かすことについての肯定的な回答が92%になった。	B	体力の向上について、児童にとって楽しく運動できるような取組を引き続き、行なってもらいたい。	運動が苦手な児童を減少させるため、体力向上のための取組を教員内で精査する。脚力、柔軟性向上のための手立てを年度内に構築し、環境づくりを推進する。新年度初期から実施できるようにする。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育コーディネーターの複数配置、校内相談会の開催による対応組織の整備 ・エンカレッジルームや保健室を活用したやむを得ず教室に登校できない児童等の居場所の確保 ・各種便りの交換（月1回）及び、対象児童の実態や受け入れ条件等に応じた共同学習の検討 ・S.C勤務日を活用した情報共有の機会の確保（年38回）	・教員対象の意識調査で特別支援教育に対する満足度を80%以上にする。 ・保護者対象の意識調査において、教育相談に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B		B	・学習室、プレイルーム等環境を整備・充実させることができた。 ・特別支援教育について理解啓発や周知をするためのパンフレットを作成した。また、夏季休業中に校内において、特別支援教育研修を5回開催し、知識・理解を深めることができた。 ・意識調査は今後実施予定である。	A	特別支援教育についての推進は素晴らしい。今後も継続されたい。	B	・特別支援教育に関する意識調査では、保護者、教員ともに8割以上の肯定的結果を得ることができた。教育内容を広報していくことが課題である。 ・校内研修を5回実施して、教員の知見を深めることができた。今後は通常学級の担任にも広げていく。	B	様々な特性をもつ児童にも、これまでどおり、手厚い指導をしていきたい。	特別支援教育に対する理解教育を児童及び教員に対しても行なう。長期休業中の校内研修は、通常学級担任も参加できるようにする。
	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化	・児童の問題行動等の未然防止や早期発見、対応方法の共有等を図るための生活指導会議を開催（週1回） ・「ふれあい月間」の取組を核とした児童の問題行動等の未然防止、早期発見、組織的な早期対応 ・SSWの積極的活用による児童や保護者に寄り添った支援の充実	・保護者対象の意識調査において、児童の問題行動等への対応に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ・人間関係による欠席が3日続いた時点でいじめ対策委員会を招集し速やかな対応を検討する。また、いじめが認知された場合は、3か月以内の100%解消を目指す。	B		A	意識調査は今後実施予定である。 生活指導主幹、特別支援コーディネーターや養護教諭、スクールカウンセラーを中心に、児童に関する情報を速やかに共有し、対応策を検討する体制が整っている。	A	順調と思う。	A	・いじめなど生活指導上の問題に対して、速やかに組織で情報共有することができた。また、SSW、SC、児相と連携して対応することができていた。今年度の本校でのいじめ認知数は7件であり、うち5件は解消、2件も無事に解決できているが、3カ月の継続観察中である。	A	未然防止に向けて、今までどおり、高い意識をもって取り組んでいきたい。	本校の「いじめ防止基本方針」を4月初めに再確認する。また、年度当初の保護者会で確実に保護者にも共有する。

心の充実																	
学校(園)開かれた地域社会の実現	<p><自校(園)の取組の積極的な発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施 ・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期中週1回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実。 ・必要な連絡や児童の様子等についてICTを積極的に活用し、情報の共有や教育活動への活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の意識調査において、学校の情報発信に対する満足度を80%以上にする。 	B		B	<p>学校からの情報発信は各種便りや連絡メール等を活用して、効果的に進めることができています。</p>	B	<p>適宜、HPや連絡メール、必要に応じてタブレット端末のTeamsを用いて発信できている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、連絡メール等で適切に速やかに情報発信することができています。また、保護者の本校の情報発信に対する肯定的評価が、8割を超えた。 	A	<p>これからの社会では、IT機器が必要ツールになるので、引き続き指導をお願いしたい。</p>	<p>専科教員や特別支援教室担当もそれぞれの活動をホームページに掲載するよう促す。</p>			
	<p><学校関係者評価の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員(学校評議員)による参観機会等の確保や情報発信の充実に向けて、適正で適切な評価の実施。 ・評価結果について「学校ホームページ」上に公開し、保護者や地域に開かれた学校運営の実現。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動会」「文化的行事」「学校公開」を活用した参観の機会を年5回設定する。 ・各学期中週1回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実を図る。(再掲) 	A		A	<p>関係者評価や保護者アンケートの結果報告は、今後実施予定である。</p>	A	<p>2回の学校評議員会及び、運動会、学校公開等ができています。11月の学習発表会が楽しみです。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校行事を公開することができた。今年度から「学習発表会(みなみフェス)」として、音楽会、学芸会、作品展の3要素を負担なく取り入れる新しい方法を試み、無事に開催することができた。 	A	<p>各学校行事について、公開いただけており、またHPや各種便りにて知らせていただきありがたい。</p>	<p>令和8年度から設置する「平井南小学校コミュニティ・スクール」において、どんな学校地域連携型活動ができるか検討する。</p>			
教育の特色ある展開	<p>心の教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年集団活動による自他を思いやる心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年集団による定期的な「ふれあい班活動」や年1回の全校遠足の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の意識調査において、異学年集団活動に対する満足度を80%以上にする。 	A		A	<p>全校遠足やふれあい班活動を順調に進めている。保護者アンケートは今後実施する。</p>	A	<p>順調である。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい班(異年齢集団)活動について、保護者アンケートによる肯定的評価が8割を超えた。月に1度の活用を継続し、児童同士の交流の場を確保する。 	A	<p>達成感を味わえた後の児童の表情がすばらしかった。学力向上と併せて情操面の涵養も大切だと思うので、引き続き指導をお願いしたい。</p>	<p>現在、異学年集団活動は順調である。基本的に継続実施するが、改善点に対しては高い意識をもって臨む。</p>			
	<p>連携・協働による教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校応援団」による「読み語り」や地域の人材や環境を活用した教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間帯を活用した「読み語り」の実施(年11回) ・旧中川や地域の施設を活用した「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域と学ぶ」教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の意識調査において、連携・協働による教育の推進に対する満足度を80%以上にする。 	A		B	<p>地域ボランティアとの連携を深め、昨年度より読み聞かせの回数が増やすことができた。</p> <p>地域の教育資源を活用した取組は、各学年で今後実施予定である。</p>	B	<p>読み語り活動や11月のクリーン作戦など順調に実施できている。7月の灯笼づくり出前授業も無事に終えることができた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーン作戦は暑さのため予定2回のうち1回が中止となったが、他すべては滞りなく実施することができた。安全見守り隊の皆様と児童との対面の会も行なうことができた。また、9割の保護者が地域との連携に肯定的評価である。 	A	<p>地域との連携を大切にされているので、引き続きお願いしたい。</p>	<p>現在、順調であるが、新発定するコミュニティ・スクールにおいて、改善点や新規事業を検討していく。</p>			